

研究ノート 家族の意思決定の要因 (2) : 価値意識・家族関係・意思決定法

著者	生野 桂子
雑誌名	川口短大紀要
巻	24
ページ	153-162
発行年	2010-12-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1354/00000709/

家族の意思決定の要因 (2)

— 価値意識・家族関係・意思決定法 —

生 野 桂 子

要 約

家族の意思決定の要因である価値意識を中心に、家族関係や意思決定法との関連性をみた。

方法としては質問紙調査法に依り、大学生及び高校生の意識を捉えると共に、男女差や大学生高校生間の差異、また共通性も捉えられた。家族の意思決定に影響を与える要因として家族内の関係も認められたが、常に家族としての一つの選択肢にたどりつくわけではなく、「自律型」の決定に至る場合もあった。意思決定法については、より重要な決定事項では深慮する姿が窺えた。

1. 緒 言

(1) 家庭経営と意思決定

家族の営みである家庭経営とは、生活主体となる家族員の目的達成を図るために、家族の資源利用を組織化し、家庭内外の環境との調整や家族員相互の調整を図ることであり、そのためには、家族の全と個、過去・現在と将来との関係を踏まえた営みであることが重要である。また、単に合理性が追求されるのではなく、家族員の行動の動機付けとなる心理的、知的な家庭像を重視した家族の意思決定過程を中心概念として捉えたものである必要がある。

一方、重要な家族の機能として家族員を教育する力を挙げることが出来るが、この家族員に対する家族の教育力という観点から見た場合、日常の生活場面における常態的な、或いは突発的な家族としての種々の意思決定を通して、家族員の環境への順応力、及び環境の醸成力という二側面からの能力が培われていると捉えることができる。

意思決定過程とその実行過程を通して、家族員は常に変化・発展しているのであり、家族とは共に生きる関係を持った集合の単位であることから、家族員の変化は、そのまま家族の意思決定のあり方に影響を与え、常に新たな家庭経営を生み出す要因となる。

家族の意思決定に影響を及ぼす家族の要因は様々であるが、主として以下の7つに整理することができる。

1) 価値

望ましい概念であり、選択行為のあらゆる場面で作用をし、可能な行動の中から一つの行動を選択するときに影響を与える規範的基準

2) 家族の特性

家族構成・ファミリーライフサイクルの段階・職業や教育程度・居住地・住居・宗教等

3) 家族の持つ資源

収入・諸資産・時間・効果的な道具・知識等

4) 家族構成員の役割や期待

家族員の持つ様々な役割、周囲からの期待等

5) 社会経済的状况

文化的様式や国民経済の状況等

6) 家族員の認識状況

周囲の情報を基に、使用可能な資源・事柄を認識していること

7) 家族員のコミュニケーション

家族員間のコミュニケーションのあり方

このうち、家族の意思決定に最も重大な影響を与える「“第一人者”は「家族員」であり」(B. Paolucci 1977)、家族員独自の「価値観」は、家族の意思決定に極めて重要な役割を果たしている。家族員の価値は、個人的価値、道徳的価値、社会的価値に分けられ、個人の持つ多様な価値意識は、価値志向となってパターン化される。価値志向は、個人や家族に秩序を与え、方向性を持たせている。

換言すれば、家庭経営とは、家族がその資源・近接環境との相互作用によって、家族の目標達成を目指す行為である。そして、マネジメントの要件は、「価値」を明確にした上で、「目標」「基準」を設定し、資源を用いることである。すなわち、マネジメントに際しての要件には「価値」「目標」「基準」があり、これら三者間の関連性を次のように捉える事が出来る。

1) 価値

人が属する集団や社会によって育成される。その基本的価値付けは、家族等との生活における行為の取捨選択、資源の利用、喜怒哀楽などを通して行われる。そして、価値と価値とを組み合わせたり、比較し、選択したりする中で新しい価値体系を構築する。

2) 目標

価値を実生活において表現し、志向するもの。努力する対象を明白にするものであり、人や集団により同じ価値を求めたとしても具体的には目的の選択がそれらの人々の持っている事実的価値のあり方によって影響を受ける。

3) 基準

価値と目標との関係から、更により現実的に到達点を明らかにしたもの。生活の各部分に望ましいと認められる状況を設定する。到達し得た基準値は次の高いレベルへと移行される。

(2) 家族員の価値形成

上述のように家族の意思決定には種々の要因がありこれらが相互に関連し合っているのだが、中でも家族員の価値意識は、家族の意思決定を実現するために極めて重要な役割を果たしているのである。

人は幼年期から青年期にかけて重要な価値の多くを体系化していくのであって、その幼い頃には両親等の持つ価値が指導的な力として存在するが、青年期になると両親の価値とは異なる価値を自ら作り出していく。家族員が基本的な生活力を体得する場となっている家族の中で、家族関係や周囲の環境は個人の価値形成に大きな影響を及ぼしている。

価値付けの過程により、家族の目標が生まれ、それは絶えず変化していくのであるが、基本的な価値付けの過程こそが家族の選択行為を導き、そして、家族の意思決定とそれに基づく行動によって、家族の未来を形成していくのである。

価値を根底とし、価値と目標と基準との関係によって、意思決定の動機付けがなされると、家族は、実際に考えられる幾通りもの選択肢の中から目標達成のために一つの方法を選択決定する。その際、各々の選択肢がもたらすであろう経過や結果を考量する。

ただ、顕著な変化や問題発生に対する認識が意識化され意識的な意思決定が行われる場合もあるれば、習慣化され常態化された行動のように意思決定の対象であるという意識にも上らない場合も多い。

普段意識の表面に上ることの少ない価値を自覚し、意識することにより、望ましい家族の意思決定へと繋がる方策が生まれ、同時に意思決定の能力の基礎が培われていくのではないかと考えられる。

2. 研究の目的

家族の意思決定の動機付けの要素として、進むべき方向を示す「目標」、到達点を明らかにしレベルを示す「基準」と、その根底に横たわる「価値（価値意識）」があり、これらが密接に関わっていることは既に述べた。また中でも価値（価値意識）は、家族の意思決定実現に重要な役割を担っており、家族の意思決定行為とそれに基づく行動の強力な動機付けとなっている。

そこで本研究では、家族の意思決定の動機付けとなる価値意識に焦点を当てて、家族環境や経験によって作り出された価値観や価値志向が家族の意思決定にどのような影響を及ぼしている

のか検討する。

まず、本報告では研究の端緒として、高校生と大学生の価値意識、及び家庭内における家族員の関係、意思決定法の在り方を明らかにし、比較的に論じることにした。

3. 研究の方法

(1) 調査目的・方法・対象・時期

質問紙調査法に依った。質問紙調査により、4段階の評定尺度による自記式回答を得、結果を単純集計・クロス集計し、*T*検定により分析した。

高校生と大学生を標本として取り上げ、価値意識、家族関係、意思決定法を関係的に把握し、比較検討することを目的とした。

調査対象は鹿児島県内の高校生男女 304 名と大学生 288 名、合計 592 名、調査用紙の配布・回収は 2007 年 12 月から 2008 年 1 月にかけて行い、回収率は 100%であった。

(2) 調査内容

質問項目は以下の 3 点である。①家族の意思決定に関わる価値意識とはどのようなものか、②家族の意思決定のどの事項（場面）においてどの家族構成員の考え方が影響を与えるか、③どのような方法で意思決定するのか。

質問項目Ⅰにおいて、家族の意思決定に関わる価値意識について 8 つの小項目（食・衣・住・仕事・家庭生活・祖父母・母・父）を設定し、「とてもそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」の 4 段階尺度による選択回答を求めた。

質問項目Ⅱにおいては、「家族の意思決定場面における家族員の影響力」について「父・母・あなた・その他の家族・その他・分からない」の中から複数可とし選択させた。

調査項目Ⅲにおいては、意思決定場面を提示し「どのような方法で選択に至るのか」について質問し、「優先する価値を考慮し、価値を順番に並べて選好の優先順位を付ける」「生活の中で制限されていることを考慮し、客観的に削除して決定する」「一つの行動に重点を置き単一の選択対象が速やかに把握されすぐに結論に至る」「その他」の 4 つの中から選択回答させた。

4. 結果と考察

(1) 質問項目Ⅰについて

質問項目Ⅰについての単純集計結果は以下の通りである。

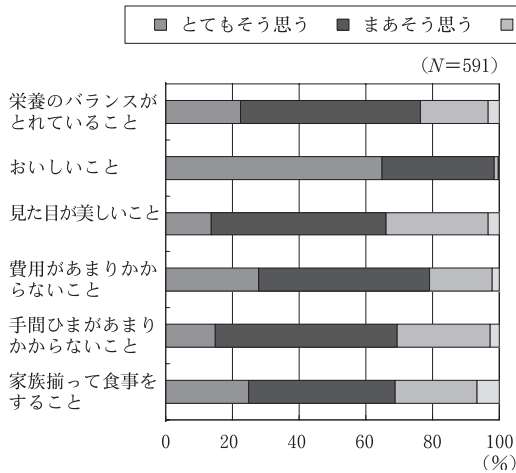


図1 夕食をする際に重視すること

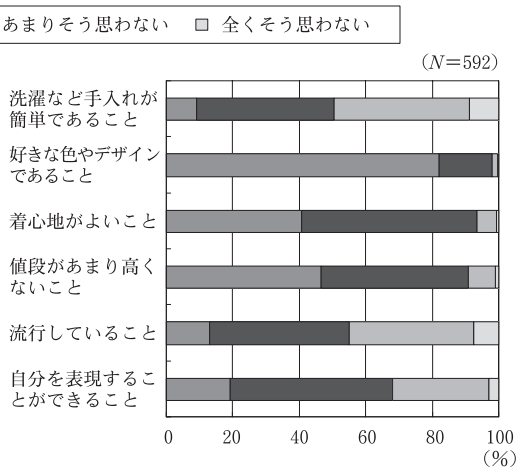


図2 衣服を購入する際に重視すること

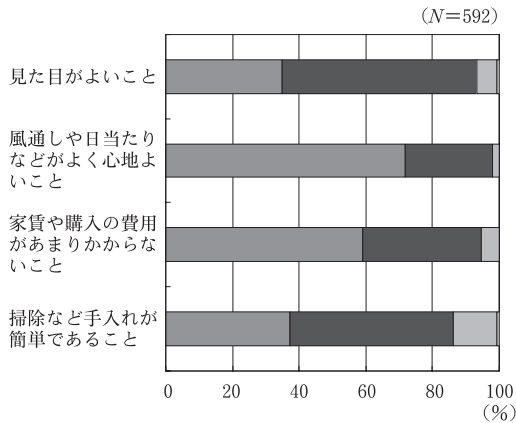


図3 住まいを選択する際に重視すること

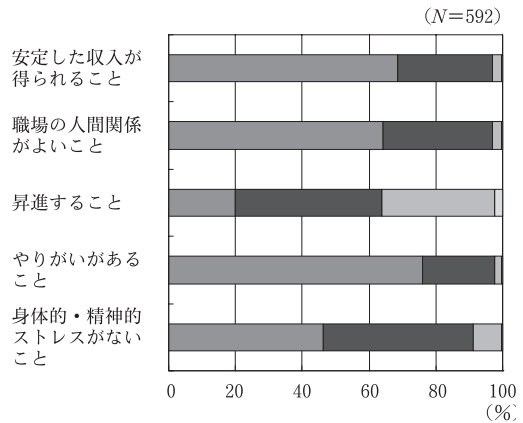


図4 仕事について重視すること

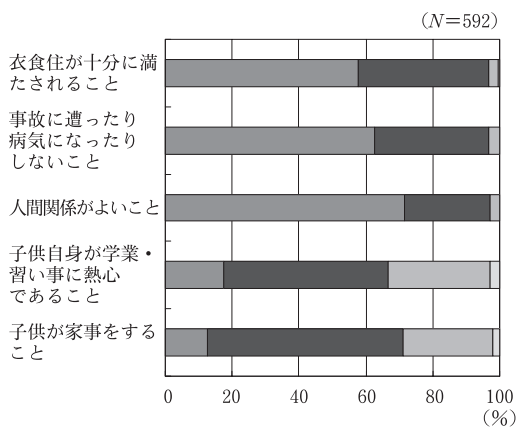


図5 家庭生活においてあなたが重視すること

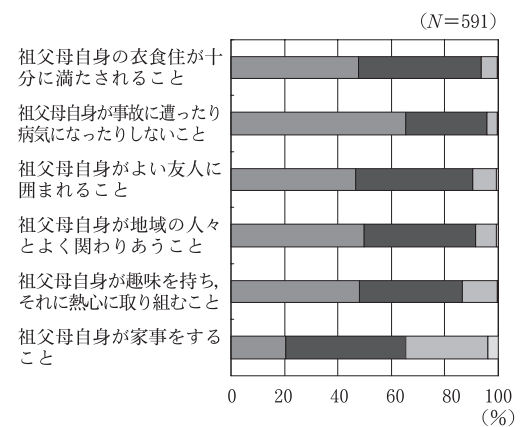


図6 あなたから見て祖父母が重視していること

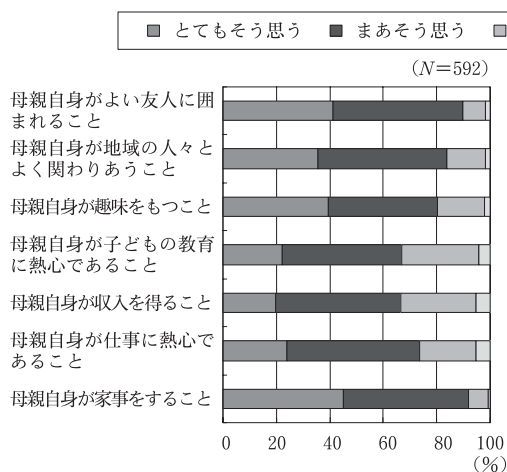


図7 あなたから見て母親が重視していること

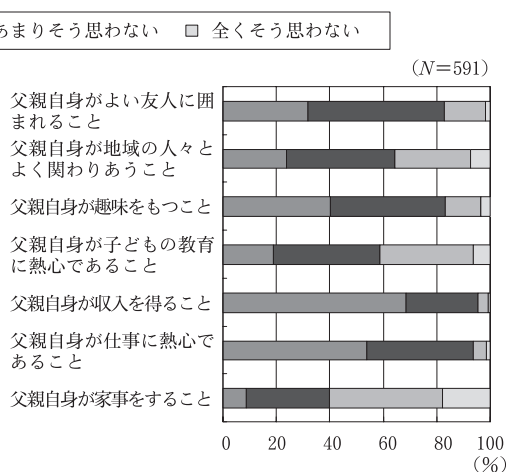


図8 あなたから見て父親が重視していること

質問項目Iでは、食・衣・住・仕事・家庭生活・祖父母の生き方・母の生き方・父の生き方について、それぞれ何を重視しているか、重視していると思うかと尋ねた。

結果、食に関する質問では、「食事がおいしいこと」、衣では、「色・デザイン・着心地・適正な値段」、住では、「外観・日当たりや通風・費用」が重視されていた。同様に重視されたものは、仕事については、「安定した収入・人間関係・ストレスがないこと」、祖父母については、「衣食住が満たされること・事故や病気にならない・地域の人と関わる」、母については、「母親自身が家事をすること」、父親については、「父親自身が収入を得ること・父親自身が仕事に熱心であること」等が重視されていた。

結果を男女別にクロス集計し、T検定を行った結果、女子が有意に重視している項目は、食事の「見た目が美しいこと・家族揃って食事をする」、衣服の「手入れが簡単であること・流行していること・自分を表現できること」、家庭生活では、「子どもが学業や習い事に熱心であること・子どもが家事をすること」、祖父母については「祖父母がよい友人に囲まれること・祖父母が家事をすること」などである。女子の方が見た目の美しさや、家事の機能性、家族関係を重視している姿が窺えた。

また、同様に、母親については、「母親が収入をえること」を女子が有意に重視していた。「母親が家事をすること」を重視しているのは、男子が多かったことから、男子は女子に比較して、女性に家事役割を期待している。

さらに、大学生と高校生の比較では、大学生の方が有意に「栄養バランスがとれていること・手間がかからないこと・手入れが簡単であること」を重視し、高校生は、「食事の見た目・衣服の流行」の項目で有意に重視していた。大学生の方が健康や労力の価値意識が高いことが分かった。

表 I-1 男性と女性の比較

(単位=%)

		とても そう思 う	まあそ う思 う	あまり そう思 わない	全くそ う思わ ない
おいしいこと	男性 (N=276)	58.7	39.1	1.8	0.4
	女性** (N=295)	71.5	27.5	0.7	0.3
見た目が美しいこ と	男性 (N=276)	12.0	47.8	35.9	4.3
	女性** (N=295)	15.9	57.3	24.7	2.0
家族揃って食事を すること	男性 (N=276)	19.9	43.1	27.5	9.4
	女性*** (N=295)	29.5	44.4	22.0	4.1
好きな色やデザイ ンであること	男性 (N=277)	72.6	24.2	2.9	0.4
	女性*** (N=295)	90.2	9.5	0.0	0.3
風通しや日当たり などがよく心地よ いこと	男性 (N=277)	67.9	28.9	3.2	0.0
	女性** (N=295)	75.9	23.7	0.3	0.0
職場の人間関係が よいこと	男性 (N=277)	58.5	37.9	3.2	0.4
	女性** (N=295)	69.8	28.5	1.4	0.3

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ *** $p < 0.001$

表 I-2 男性と女性の比較

(単位=%)

		とても そう思 う	まあそ う思 う	あまり そう思 わない	全くそ う思わ ない
やりがいがあるこ と	男性 (N=277)	70.0	27.1	2.9	0.0
	女性** (N=295)	82.4	15.9	1.4	0.3
人間関係がよいこ と	男性 (N=277)	64.6	30.3	4.7	0.4
	女性*** (N=295)	78.3	20.7	1.0	0.0
子供(あなた)が家 事をする事	男性 (N=277)	10.5	54.9	31.8	2.9
	女性** (N=295)	14.9	62.0	22.0	1.0
祖父母自身が事故 にあたり病気に なったりしないこ と	男性 (N=277)	60.1	34.4	5.1	0.4
	女性** (N=295)	70.8	26.1	2.7	0.3
母親自身が趣味を もつこと	男性 (N=277)	32.9	45.8	19.5	1.8
	女性* (N=295)	46.8	34.9	15.9	2.4
父親自身が収入を 得ること	男性 (N=277)	64.1	28.6	6.2	1.1
	女性** (N=295)	72.2	25.4	1.7	0.7

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ *** $p < 0.001$

仕事では、高校生が「昇進すること」を重視し、子どもの「学業や習い事・子どもの家事参加」も高校生が有意に重視していた。ほかに、高校生の方が有意に重視している項目は、母親について、「地域の人と関わる・母親が収入を得る・仕事に熱心である」ことであり、父親については、「良い友人に囲まれる・家事をする」ことであった。高校生は、尊厳や自我の価値意識が高く、父母自身の自己実現や人間関係を重視している。また、仕事や家事に対する役割期待が大学生よりも低いことが分った。

(2) 質問項目Ⅱについて

意思決定の事項が異なる場面を想定し、誰の意見が最も意思決定に強く反映されるか尋ねたところ、服の購入やデザインでは本人が最も多く (79.6%・93.4%) 自立型の意思決定パターンと言える。テレビの購入やデザインでは父親が (74.6%・66.7%)、家事に関わる製品の購入やデザインは母親が多い (84.2%・83.7%)。家の購入については、父親が多く (86.2%)、家のデザインについては父母がほぼ等しい (69.0%・68.4%)。外食をすることは母親 (75.6%)、外食の行先は父親、母親、本人がほぼ同数 (53.5%・58.4%・54.9%) であった。外食の行先は家族全員の見解が重視される一致型の意思決定パターンである。子どものしつけや、母の仕事については母が8割~9割の割合で決定している。本人の進学については、「本人」、「父と母と本人」、「母」の順に多い。

家庭生活全般に関することは父親と母親の見解が反映されやすく、母親と子どもの事は母親の見解が反映されやすい。また、子ども自身に関わることで、服のデザイン選び等本人任せのもの

表Ⅱ-1 大学生と高校生の比較

(単位＝%)

		とても そう思 う	まあそ う思う	あまり そう思 わない	全くそ う思わ ない
見た目が美しい こと	大学生 (N=288)	11.1	47.9	36.8	4.2
	高校生** (N=303)	16.2	56.8	24.4	2.6
流行しているこ と	大学生 (N=288)	8.3	30.9	47.9	12.8
	高校生*** (N=304)	17.4	52.3	27.6	2.6
家賃や購入の費 用があまりかか らないこと	大学生* (N=288)	64.2	31.6	4.2	0.0
	高校生 (N=304)	53.9	39.8	6.3	0.0
安定した収入が 得られること	大学生 (N=287)	59.9	38.0	1.7	0.3
	高校生** (N=303)	76.9	19.5	3.6	0.0

* $p<0.05$ ** $p<0.01$ *** $p<0.001$

表Ⅱ-2 大学生と高校生の比較

(単位＝%)

		とても そう思 う	まあそ う思う	あまり そう思 わない	全くそ う思わ ない
人間関係がよい こと	大学生* (N=288)	74.7	24.3	1.0	0.0
	高校生 (N=303)	69.1	26.3	4.3	0.3
母親自身が収入 を得ること	大学生 (N=288)	16.4	43.2	33.1	7.3
	高校生** (N=304)	22.7	50.3	23.4	3.6
母親自身が仕事 に熱心であるこ と	大学生* (N=288)	21.5	48.6	22.9	6.9
	高校生 (N=303)	26.3	50.7	19.4	3.6

* $p<0.05$ ** $p<0.01$ *** $p<0.001$

のから、進路など本人の意見を重視しつつも母と父の意見が反映されている事項などいろいろである。

(3) 質問項目Ⅲについて

意思決定事項ごとに意思決定法を選択式で尋ねたところ、全体的に最も多かったのは「選好の優先順位をつけて決定する」方法である。しかし、「昼食の弁当の購入」は、「選好の優先順位をつけて決定する (38.9%)」「すぐに決定する (33.3%)」が多いが、「仕事を決める」では、「選好の優先順位をつけて決定する (75.6%)」「客観的に削除して決定する (12.6%)」「すぐに決定する (8.2%)」となる。「服を購入する」では、「選好の優先順位をつけて決定する (53.5%)」「客観的に削除して決定する (21.5%)」「すぐに決定する (23.4%)」となる。

男女で比較した場合、ほぼ同じ傾向を示したが、「仕事を決める」方法の場合、5%の危険率で「選好の優先順位をつけて決定する」と回答した女子が有意に多い。大学生と高校生の比較では、「仕事を決める」方法の場合、5%の危険率で「選好の優先順位をつけて決定する」と回答した高校生が多い。

(4) ま と め

家族の意思決定の要因である価値意識、家族関係、意思決定法について検討してきたが、価値意識では全体的傾向として、経済、人間関係、安全や健康、快適さ、美、自己実現の価値が重視されていることが分かった。

また依然として男女の役割分業意識が根強いことも把握された。男性と女性とでは、似たような傾向を示しつつも価値観には多少のずれがあることが確認された。

大学生と高校生との比較により、大学生としての経験が高校生との差異を生じさせる遠因となっ

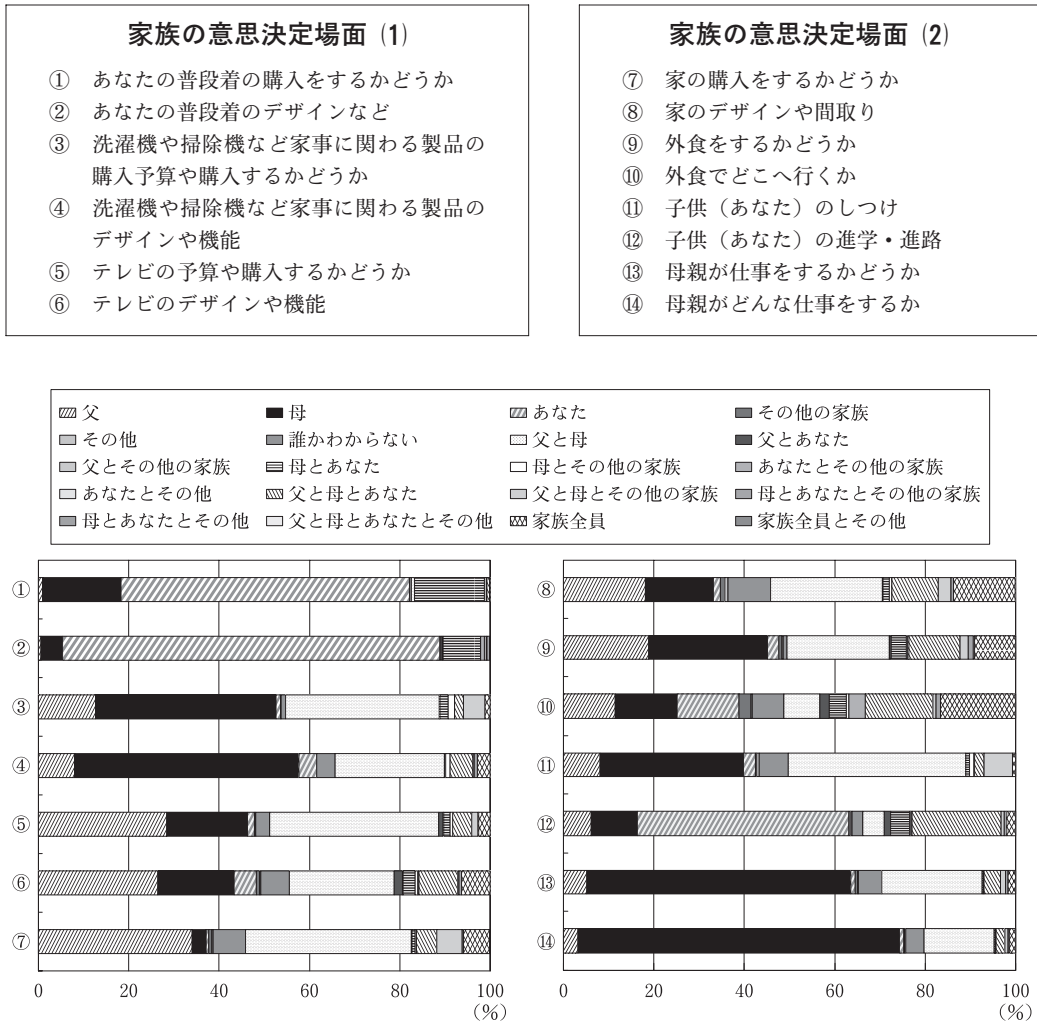


図9 家族の意思決定場面で誰の意見が最も強く影響するのか

ていると思われた。衣に関する価値意識で「流行していること」を重視するかどうかは、*T* 検定結果から、学校による差となって表れていたことが分った。

「洗濯など手入れが簡単であること」「父親が子どもの教育に熱心であること」「父親自身が家事をすること」では有意な差は見られず、調査項目以外の個人差による要因が影響していることも考えられる。

家族の意思決定における家族関係の調査からは、意思決定事項により、意思決定の際どの家族員の意向が強く影響するかが異なり、各成員に決定が委ねられる「自律型」や、家族で意見を一致させようとする「一致型」が混在していることが分かった。

価値意識と家族関係の接点として、家族の勢力構造や役割期待、「子ども中心主義」などといっ

表Ⅲ 男性と女性の比較

(単位=%)

		価値を順番 に並べて決 定する	削除して 決定する	すぐに決 定する	その他
仕事を決 めるとき	男性 (N=273)	73.3	13.2	11.4	2.2
	女性* (N=291)	80.4	12.7	5.5	1.4

* $p<0.05$

表Ⅳ 大学生と高校生の比較

(単位=%)

		価値を順番 に並べて決 定する	削除して 決定する	すぐに決 定する	その他
仕事を決 めるとき	大学生 (N=287)	71.4	16.7	9.8	2.1
	高校生* (N=297)	82.2	9.1	7.1	1.7

* $p<0.05$

た家族のあり方等が浮き彫りにされたといえる。

意思決定法については、「仕事を決めるとき」等、より重大な意思決定場面において価値を順番に並べて深慮する傾向が見られた。そして、男女差、高校生・大学生間で有意な差が現れた。

5. 終わりに

様々な意思決定場面において、各家族員がどのような価値意識によって、どのように意思決定を行うのかを整理することにより、選択肢の広がりが見られ、より有効で充実した意思決定力が培われることであろう。さらに、自身の持つ価値観や価値志向を知覚していくことや、価値の形成に大きな影響を及ぼす家庭・家族の機能について見直して行くことが期待される。

今後の研究課題としては、より具体的な意思決定場面を想定し、意思決定の成分の分析を進めると共に、価値意識と目標、基準を相関関係で捉えることが挙げられる。

また、様々な解決法を探る実際的なあり方を求め、提案していきたいと考えている。

最後に、アンケートに協力頂いた方々、集計に携わった吉満美保さんはじめ多くの方々に謝意を表します。

引用参考文献

- (1) B・ポウルチ, O・A・ホール, N・W・アキシン共著, 丸山令子, 福島由利子共訳『家族の意思決定——生活の質の向上のために——』家政教育社 1988年
- (2) 石川明美著『アメリカの家庭管理論』同文館 1987年
- (3) 今井光映, 小国弘司, 今村幸生編著『現代家庭経営学』勁草書房 1985年
- (4) 小谷正守, 出石康子編著『消費経済と生活行動』ミネルヴァ書房 1993年
- (5) 上子武次, 増田光吉編著『日本人の家族関係——異文化と比較して《新しい家庭像》をさぐる』有斐閣選書 1989年
- (6) 高橋敷編著『日本の家庭・世界の家庭』三晃書房 1976年
- (7) 亀口憲治著『家庭のイメージ』システムパブリカ 2003年
- (8) 日本家族心理学会編『家族心理学年報 25 家族支援の心理教育——その考え方と方法』金子書房 2007年

(2010年9月29日提出)